

ご参考資料

2016年2月12日

2016年2月12日の弊社ファンドの基準価額下落について

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2016年2月12日、一部の弊社ファンドの基準価額が前営業日比で5%超下落しました。以下に該当ファンドの一覧および基準価額の主な下落要因となった市場環境についてお知らせいたします。

1. 基準価額が前営業日比で5%超下落した公募投資信託(2016年2月12日現在)

ファンド名	基準価額	前営業日比	前営業日比 騰落率
GS グロース・マーケット・ファンド 株式Bコース(為替ヘッジなし)	9,440円	▲619円	▲6.2%
GS・日本株ファンド【牛若丸】	8,397円	▲467円	▲5.3%
GS・日本株ファンド(自動けいぞく)【牛若丸(自動けいぞく)】	11,124円	▲624円	▲5.3%
GS 日本株式インデックス・プラス	7,993円	▲466円	▲5.5%
GS 日本株・プラス(円コース)	7,190円	▲410円	▲5.4%
GS 日本株・プラス(通貨分散コース)	4,963円	▲399円	▲7.4%
GS 日本株・プラス(米ドルコース)	7,009円	▲597円	▲7.8%
GS 日本小型株ファンド	9,451円	▲535円	▲5.4%
GS 日本フォーカス・グロース 毎月決算コース	7,778円	▲453円	▲5.5%
GS 日本フォーカス・グロース 年2回決算コース	7,803円	▲456円	▲5.5%

騰落率とは、ファンドの決算時に収益の分配があった場合に、その分配金(税引前)でファンドを購入(再投資)したと仮定して算出した場合の騰落率です。

ファンドによって、投資対象市場の基準価額への反映タイミングが異なります。

2. 基準価額の下落要因となった主な市場環境について

主なマーケット指標	2月11日	2月9日	騰落率
MSCI エマージング・マーケット・インデックス	713.04	729.88	▲2.3%

出所:ブルームバーグ、米ドルベース

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料は、弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された過去のデータは、将来の結果を示唆あるいは保証するものではありません。本資料に記載された見解は情報提供を目的とするものであり、いかなる投資助言を提供するものではなく、また個別銘柄の購入・売却・保有等を推奨するものでもありません。記載された見解は資料作成時点のものであり、将来予告なしに変更する場合があります。本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(I)複写、写真複写、あるいはその他いかなる手段において複製すること、あるいは(II)再配布することを禁じます。

ご参考資料

主なマーケット指標	2月12日	2月10日	騰落率
東証株価指数(TOPIX)	1196.28	1264.96	▲5.4%
米ドル/円(対顧客電信売買相場の仲値)	112.44	114.73	▲2.0%
ユーロ/円(対顧客電信売買相場の仲値)	127.15	129.53	▲1.8%
英ポンド/円(対顧客電信売買相場の仲値)	162.70	165.92	▲1.9%
カナダドル/円(対顧客電信売買相場の仲値)	80.70	82.53	▲2.2%
オーストラリアドル/円(対顧客電信売買相場の仲値)	79.89	81.02	▲1.4%
ニュージーランドドル/円(対顧客電信売買相場の仲値)	75.22	76.11	▲1.2%

出所:ブルームバーグ

[コメント]

2016年2月11日の新興国株式市場は、グローバル経済に対する懸念の高まりを受けて、大幅下落となりました。特に、春節の連休明けとなった中国や韓国市場で大きく続落し、市場のセンチメントが冷やされました。

2016年2月12日の日本株式市場は、為替市場における円の急騰とグローバル株式市場の続落を受けて投資家の不安心理が増幅され、東証株価指数は前営業日比5.4%の大幅下落となりました。東証一部上場銘柄のうち、上昇銘柄数53に対し下落銘柄数は1877と全面安の展開、東証33業種全てが下落するなか、海運、その他金融、証券・商品先物取引などが下げを主導しました。

為替市場では、前日のニューヨーク市場では一時1ドル110円台を付けたものの、12日の東京市場では日銀による為替介入観測も浮上し、急速なドル高がやや一服する形で112円台での推移となりました。

ファンドのリスク

投資信託は、国内外の株式や公社債等の値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額が変動します。また、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。信託財産に生じた損益はすべてご投資家の皆さまに帰属します。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資リスク」を必ずご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用	
購入時手数料	上限4.32%(税込)
信託財産留保額	上限0.3%
投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額に対して年率上限2.16%(税込) *一部のファンドについては、運用成果等に応じて成功報酬をご負担いただく場合があります。
その他の費用・ 手数料	有価証券売買時の売買委託手数料、監査費用、資産を外国で保管する場合の費用等 上記その他の費用・手数料(組入れ投資信託証券において発生したものを含みます。)はファンドより実費として間接的にご負担いただきますが、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

上記の手数料等の合計額については、ご投資家の皆さまがファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)(が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料は、弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された過去のデータは、将来の結果を示唆あるいは保証するものではありません。本資料に記載された市況や見通し等は、本資料作成時点での弊社の見解であり、将来の動向や結果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合があります。本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(Ⅰ)複写、写真複写、あるいはその他いかなる手段において複製すること、あるいは(Ⅱ)再配布することを禁じます。

ご参考資料

《ご注意》

前ページに記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社が運用する投資信託のうち、ご投資家の皆さまにご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。

投資信託の取得の申込みにあたっては、販売会社より「投資信託説明書(交付目論見書)」をお渡しいたしますので、必ずその内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

投資信託は預金保険または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。投資信託は金融機関の預金と異なり、元金および利息の保証はありません。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第325号

加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

© 2016 Goldman Sachs. All rights reserved. <33721-OTU-179078>

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料は、弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された過去のデータは、将来の結果を示唆あるいは保証するものではありません。本資料に記載された市況や見通し等は、本資料作成時点での弊社の見解であり、将来の動向や結果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合があります。本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(Ⅰ)複写、写真複写、あるいはその他いかなる手段において複製すること、あるいは(Ⅱ)再配布することを禁じます。